

タイトル：「稚魚放流会が行われました」

令和2年7月16日（木）、五戸町でイワナ、ヤマメの稚魚放流会が開催されました。『魚にやさしい五戸川の環境づくりを進める会』が開催している放流会は、多様な生物の生息が可能な自然環境を復活させるため、「環境公共」の取組の一環として行っています。

13回目となる今年は、みゆき保育園、江渡幼稚園、くらいしこども園の園児約50人が、あわせて4,000匹の放流を行いました。



川村会長からのお話



イワナの成魚の観察の様子



「元気にそだってね!」「大きくそだってね!」などと声をかけ放流泳いでいく姿に、手をふり見送りました。園児たちの元気な応援に稚魚もうれしそう! 感染症対策として全員マスクを着用しての開催。放流も二箇所に分かれて行いました。様々な行事や外出が制限される中、稚魚を渡された時の喜ぶ顔から、園児たちも放流会を楽しみにしていた様子うかがえました。

環境保全の重要な要素に「水」の役割が挙げられます。川や海に多様な生き物が生息できるように守っていくことは、我々にできる保全と再生の活動です。園児たちは、放流会を通じて「なぜ生き物の住む川をきれいにしなければならないのか」、わたしたちが普段なにげなく使っている水は「どこからやってくるのか」を学ぶことができました。

園児たちにとって、環境についてより身近に感じる体験となりました。